

## 炭坑従業員の宗教的態度

古野, 清人

阿部, 重夫

船津, 孝行

<https://doi.org/10.15017/2328802>

---

出版情報 : 哲學年報. 18, pp.164-179, 1955-11-30. 九州大学文学部  
バージョン :  
権利関係 :

## 炭坑従業員の宗教的態度

### 一 調査の目的と手続

産業形態を異にする諸集団の宗教的信念及び態度に現われる相違を解明しようとする企図の一環として、近代産業のうち比較的原始的な産業形態を取ると考えられる炭坑従業員を調査の対象として取り上げ、面接による質的な研究と質問紙法による数量的な研究を併用した。こゝに述べるものはその後者の方法による研究の手続と結果とを概括したものである。

#### 質問紙とその構成 — 附録参照 —

A 被調査者の経歴 性別、年齢、本籍地、炭坑に就職してからの年数、学歴、職種などの宗教的態度に関連を有すると考えられる事項について明らかにする。特に職種については、職員、鉱員、坑内、坑外の別が明確に把握できるように考慮した。その作業環境が坑内にある者は坑外の者より危険が多く、また収入も多い。

古野清人  
阿部重夫  
船津孝行

**B 質問事項** 宗教的態度についての質問項目は、この調査の性格を予め規定するものであるが、できるだけダイナミックな炭坑従業員の宗教に対する反応を明らかにすることを主眼とした。態度を客観的に把握するために、單なる主観的な判断だけではなく、宗教的な態度を反映している被調査者の行動についての報告も得られるように仕組まれている。

また各質問項目は、被調査者の教育水準を予め考慮して、特に文章を平易にし、ハイ、イ、エの何れかにチェックをする簡単な形式のものを使用した。その意図している調査事項は、

一—六項、被調査者及び父母の宗旨とその信仰の程度について。何れかの宗派に所屬するか否かをもつてその宗教的關心あるいは態度の度合を規定することはできないので、それぞれについてその信仰の程度を熱心かどうかという程度で評定させるようにした。これらの項目から、両親と被調査者の間における宗教的關心の推移、性別による關心の差異を明らかにする。

七—八項、被調査者の入信（回心）の時期及び動機。こゝでは具体的に、「病氣、悩み、父母の感化、その他」の項を設けてチェックを求めた。

九—十一項、神佛及び靈魂の存否、輪廻、不滅に関する問題。これらの諸項では一般的な宗教的信念の問題をとり上げ、それによつて、第五、六項において答えられた被調査者自身のなした主観的な自己の信仰の程度についての判断を客観的な角度から裏付けようとした。

十二—十五項、神佛祭祀の場所の有無、及びその祭神の呼名について。こゝでは特に、神棚、佛壇の外に民間信仰的な祭祀の有無、種類を説明しようとした。

十六—十八項、祈トウ師、呪術に關して。医学の發達と、医学的知識の普及に伴う呪術的治療の消長の実体を明らかにし、それらに対する被調査者の價值判断を求めようとした。

十九—二十項、嫌惡する宗教の有無及びその宗教。積極的な宗教的関心を解明せんとした十八項迄の諸項目の他に被調査者のネガティブな資料も逆にその宗教的関心を知るのに必要であるとする観点からこの項目を設定した。

調査標本の抽出

この調査の対象とした地域は筑豊炭田地帯であるが、筑豊炭田の諸炭坑は慣行上からも行政的にも、大手、中小の炭坑に区分される。前者は概して従業員千名以上を有する大企業であり、後者は前者に較べて、その企業の規模、従業員数、出炭量その他においてそれ以下のものを指す。

本調査の標本は従業員数（大体において出炭量と比例する）と直方、飯塚、田川の三地区を層化の目安として、大正鉱業中鶴炭坑（大手）昭嘉炭坑、木曾本洞炭坑、本添田炭坑、仁保炭坑の五炭坑を抽出した。なおこれらの諸炭坑は日本石炭鉱業会会長武内礼藏氏、北九州石炭懇話会囑託島田

第I圖 調査炭坑分布圖



第 I 表 標 本 数

| 区 分   | 炭 坑 名   | 従業員数 | 標 本 数 | 比 率    | 豊 炭 出 数<br>従 業 員 | 比 率    |
|-------|---------|------|-------|--------|------------------|--------|
| 大 手   | 中 鶴     | 3610 | 517   | 68.6   | 93,251           | 70.7   |
| 中 ・ 小 | 昭 嘉     | 770  | 111   | } 31.4 | } 38,545         | } 28.9 |
|       | 本 洞(木曾) | 460  | 54    |        |                  |        |
|       | 本 添 田   | 115  | 50    |        |                  |        |
|       | 本 仁 保   | 77   | 21    |        |                  |        |
| 計     |         |      | 753   | 100    | 131,796          | 99.6   |

炭坑従業員の宗教的態度

寅吉氏その他の炭界の有識者の意見をも参照して抽出されたものである。またこれらの諸炭坑の外に、予備調査として福岡炭田の早良炭坑を、更に本調査に併行して、三井山野鉱業所、豊國炭坑(大手)、武内中山炭坑、位登炭坑(中小)についても、面接調査を行ったが、これらの資料はこの報告には含まれていない。第 I 図にはこれらの諸炭坑の地域的な分布が示されている。丸印は上述の集計された諸炭坑を、△印はこれと併行して調査された諸炭坑を表わしている。

第 I 表には、集計された大中小の諸炭坑に割当られた標本数が示されている。この表によつて、中鶴、昭嘉、本洞の各炭坑では大凡従業員の一五%が、本添田、仁保では三十%が抽出されていることがわかる。また筑豊炭田の従業員総数の中で、大手に所属するものと中小に属するものゝ比率は七対三で、これは各層から抽出された標本数にほぼ一致している。

このように各炭坑に割当られた標本数は更に、

坑内夫(直接夫、間接夫)

坑外夫(男、女)

職員(技術、事務)

の各職種別に、地域総数から割出された人数が指定配分された。各炭坑においては、この職種別に割当られた人数に従つてできるだけ偏らないように被調査者が抽出され

た。調査を実施するに際しては、事前に各炭坑の文化部員、勤労課職員等の調査の世話を願つた人達に説明を行い、実施にわれわれが立合つた。

第I表に示された標本数は、割当数ではなく実はこのようにして得られた標本数を示すものである。これは当初の割当数より約二割不足しているが、特に何れかの層に偏つてゐるとは認められないのでそのまま整理した。

## 二 結果の整理

既に述べたように、質問紙は最初に被調査者の経歴を明らかにし、次いで大別して六部門に亘つて被調査者の宗教的態度を明らかにするように仕組まれている。いまこのような質問紙の構成に従つて結果を考察する。

### 被調査者の経歴

この調査では標本総数が少いので、地域差、大手、中小炭坑間の差及び各炭坑間の差異を考察することはできない。従つて以下においては、職員、坑内鉱員、坑外鉱員の三者についてその差異を論じることにする。

#### 1 被調査者の年令

第II表によると、被調査者の年令は十代から五十代に亘り、特に二十〜四十代に属する者が全体の八六%を占めてゐる。すべての被調査者の平均年令は三四才である。比較の資料は得られないが、その年令がほぼ蓋然分布をしてゐることは、この標本が年令的にも大きな偏りをもたぬことを示している。また坑内夫の年令平均は三三才であり、坑外夫のそれは三六才であることは、坑外夫には年令の多い者が就業してゐる炭坑の実情をよく反映してゐる。

#### 2 被調査者の在勤年数

第 II 表 被調査者年令 (職種別)

| 年令   |    | 10~20 | 21~30 | 31~40 | 41~50 | 51~60 | 計   | 平均年令 |
|------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|
|      |    |       |       |       |       |       |     |      |
| 職 員  | 実数 | 4     | 19    | 22    | 16    | 1     | 62  | 33.5 |
|      | %  | 6.4   | 30.5  | 35.5  | 26.2  | 3.3   |     |      |
| 坑 内員 | 実数 | 34    | 159   | 132   | 113   | 27    | 465 | 33.6 |
|      | %  | 7.3   | 34.2  | 28.2  | 24    | 5.8   |     |      |
| 坑 外員 | 実数 | 16    | 56    | 64    | 68    | 22    | 224 | 36   |
|      | %  | 7.1   | 25    | 28.6  | 30.4  | 9.8   |     |      |
| 計    | 実数 | 54    | 234   | 218   | 197   | 50    | 753 | 34.3 |
|      | %  | 7.2   | 31.1  | 29    | 26.2  | 6.7   |     |      |

炭坑従業員の宗教的態度

第 III 表 被調査者在勤年数 (職種別)

| 年数   |    | ~5   | 6~10 | 11~15 | 16~20 | 21~25 | 26~30 | 31~ | 不明  | 計   |
|------|----|------|------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
|      |    |      |      |       |       |       |       |     |     |     |
| 職 員  | 実数 | 24   | 11   | 10    | 6     | 6     | 5     |     |     | 62  |
|      | %  | 38.7 | 17.7 | 16.4  | 9.7   | 9.7   | 8.6   |     |     |     |
| 坑 内員 | 実数 | 218  | 94   | 47    | 35    | 25    | 31    | 11  | 4   | 465 |
|      | %  | 47   | 20   | 10.1  | 7.5   | 5.4   | 6.6   | 2.4 | 0.9 |     |
| 坑 外員 | 実数 | 102  | 42   | 18    | 16    | 17    | 14    | 7   | 10  | 226 |
|      | %  | 45.1 | 18.6 | 8     | 7     | 7.5   | 6     | 1   | 0.4 |     |
| 計    | 実数 | 344  | 147  | 75    | 57    | 48    | 50    | 18  | 14  | 753 |
|      | %  | 44.1 | 19.5 | 9.6   | 7.6   | 6.4   | 6.6   | 2.4 | 1.8 |     |

第 III 表によれば、被調査者の在勤年数は三十年以内の広い範囲に亘つて分布しているが、特に五年以下のものがその四五・七%を占め、十年以上になると著しく減少していることは、炭坑従業員の移動性を示すものに他ならない。なおこの分布は逆 J 型の分布なのでその平均年数を算出することの意味はなし。

### 3 被調査者の学歴

第 IV 表によれば、被調査者の学歴は小学校、高等小学校、青年学校卒業がその大部分の七七・四%を占めている。これにその他(その大部分が小学校中退、または学歴なし)を加えると約八十%となる。大学、高専の出身者は全体の約三・三%である。

第 IV 表 被調査者学歴 (職種別)

| 職種  |    | 学歴   |      |      |      |      |     |     | 計   |
|-----|----|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|
|     |    | 小学校  | 高等小学 | 青年学校 | 中等学校 | 高 専  | 大 学 | その他 |     |
| 職員  | 実数 | 4    | 13   | 5    | 23   | 12   | 4   | 1   | 62  |
|     | %  | 6.5  | 29.4 | 8.7  | 23.2 | 19.3 | 6.5 | 1.6 |     |
| 坑内員 | 実数 | 114  | 201  | 66   | 62   | 6    | 2   | 14  | 465 |
|     | %  | 24.5 | 48.4 | 14.2 | 13.5 | 1.3  | 0.4 | 3   |     |
| 坑外員 | 実数 | 71   | 83   | 25   | 32   | 8    | 0   | 7   | 226 |
|     | %  | 31.4 | 36.7 | 11.0 | 14.3 | 3.5  |     | 3.1 |     |
| 計   | 実数 | 189  | 297  | 96   | 117  | 26   | 6   | 22  | 753 |
|     | %  | 25.1 | 39.5 | 12.7 | 15.5 | 3.5  | 0.8 | 2.9 |     |

炭坑従業員の宗教的態度

以上に概観した年令層、在勤年数、学歴を有する者について、その宗教的な態度を問題にする訳であるが、比較検討すべき資料が存在しないのでこの標本が母集団をどのようによく代表しているものかについて数量的な信頼度を求めることはできないが、上述の手續と、それによつて得られた標本を検討した結果からは、特に著しい偏りは存在していないと考えられる。

宗教的態度

第 V 表によれば、両親に比較して被調査者の信仰程度は著しく低いことが判る。いうまでもなくこれは被調査者の主観的判定によるものであつて、客観的なものではないが、両親と被調査者の宗教に対する熱心さの度合には著しい開きが存在することが明瞭に看取される。被調査者の年令は十代から五十代に亘つて広く分布しているので、両親といつても現在なお存命の人も、また既に死去している人もある訳であるが、両親と子供の間に二十〜四十年の間隔があるとするこの期間に宗教に対する関心が著し

| 6項 自己の信仰 |      |      |       |
|----------|------|------|-------|
| 熱心       | 不熱心  | 無答   | 計     |
| 17       | 39   | 6    | 62    |
| 27.4     | 61.3 | 9.7  | 98.4  |
| 161      | 245  | 59   | 465   |
| 34.8     | 52.7 | 12.7 | 100.2 |
| 97       | 108  | 21   | 226   |
| 42.9     | 47.7 | 9.4  | 100   |
| 275      | 392  | 86   | 753   |
| 36.6     | 51   | 11.4 | 99.0  |

く減退していると云はねばならぬ。

また父親と母親とでは、母親の方がより熱心な信者であつた。

更に職員に比較して鉦員の方が、両親、被調査者共に熱心な宗教的な態度を表明している。坑内夫は坑外夫に比してより熱心な信仰度をもつてゐることが判明する。両者の平均年令では坑外夫の方がより高いことを考え合せると、これは坑内外という作業環境の差異に基くものではないかと考えられる。

\* このような現状については、いろいろの要因が作用してゐると考えられるが、面接や座談会においては、一、敗戦による思想的变化、二、炭坑の保安、厚生施設が充実して來たので、生活の危機的場面においてよりも合理的な態度を取るよゝうに変化して來た、ことなどの諸点が強調して述べられた。

\*\* 坑内、坑外夫の両親の信仰度に差異が認められないが、坑内夫の父親が必ずしも坑内夫であつたとは限らない。この場合に両親の信仰度の差異を論じることが職員及び鉦員の両親の場合ほど意味はないであらう。

第VI表には、被調査者の所属する宗派が示されている。眞宗が著しく多く(六十%)、淨土宗(七%)、眞言(六%)、禪宗(五%)、日蓮宗(四%)がこれに次ぐが、眞宗以外が占める比率は極めて小さい。キリスト教は戦後にどの

第 V 表 両親及自己の信仰 (職種別)

| 項目  | 2項 父親の信仰 |      |      |       | 4項 母親の信仰 |      |     |       |
|-----|----------|------|------|-------|----------|------|-----|-------|
|     | 熱心       | 不熱心  | 無答   | 計     | 熱心       | 不熱心  | 無答  | 計     |
| 職員  | 26       | 26   | 10   | 62    | 37       | 22   | 3   | 62    |
|     | % 42     | 42   | 16   | 100   | 59.6     | 35.5 | 4.7 | 99.8  |
| 坑内員 | 298      | 124  | 43   | 465   | 358      | 77   | 30  | 465   |
|     | % 64     | 26.6 | 9.3  | 99.9  | 77       | 16.6 | 6.5 | 100.1 |
| 坑外員 | 154      | 48   | 24   | 226   | 172      | 40   | 14  | 226   |
|     | % 68     | 21.1 | 10.6 | 99.6  | 76       | 17.7 | 6.2 | 99.9  |
| 計   | 478      | 198  | 77   | 753   | 567      | 139  | 47  | 753   |
|     | % 64     | 26.3 | 10   | 100.3 | 75.2     | 18.4 | 6.2 | 99.8  |

第 VI 表 被調査者の所属する宗派 (炭坑別)

| 炭坑 | 宗派 |      |     |     |     |       |     |    |     |     | 不明 | 計    |     |     |
|----|----|------|-----|-----|-----|-------|-----|----|-----|-----|----|------|-----|-----|
|    | 眞宗 | 浄土宗  | 眞言  | 禪宗  | 日蓮宗 | キリスト教 | 天理教 | 神道 | 金光教 | その他 |    |      |     |     |
| 中  | 鶴  | 319  | 37  | 29  | 27  | 21    | 7   | 4  | 4   | 2   | 3  | 63   | 1   | 517 |
| 昭  | 嘉  | 59   | 8   | 8   | 9   | 7     | 1   | 3  | 3   |     |    | 2    | 11  | 111 |
| 本  | 洞  | 30   | 3   | 4   | 2   |       | 1   | 2  | 1   |     | 1  | 3    | 7   | 54  |
| 本  | 添  | 33   | 1   | 1   | 1   | 1     | 5   | 1  | 1   | 3   |    | 6    |     | 50  |
| 仁  | 保  | 13   | 2   |     |     |       | 1   |    |     |     |    | 4    |     | 21  |
| 計  | 實数 | 454  | 51  | 42  | 39  | 29    | 15  | 10 | 9   | 5   | 4  | 78   | 19  | 753 |
|    | %  | 60.3 | 6.8 | 5.7 | 5.2 | 3.8   | 2   |    |     |     |    | 10.3 | 2.5 |     |

炭坑従業員の宗教的態度

炭坑にも僅かながら根を下しつゝあることが看取された。しかし眞宗といった既成の大宗教は現在のところ活発な宗教的活動を營んではいない。<sup>\*</sup>こゝに現われた自己の所属する宗派というのは、葬式を依頼する宗派といった程度のもので考えなければならぬ。

\* 特に嫌いな宗教という項目(第五表)で、眞宗などは対象として探上げられていないことからこのことが裏付けられる。

一般的信仰

1 神佛の存否

第VI表によれば、神佛は存在するとの信仰を有するものが圧倒的に多いが、無神論者が一九%を占めていることが注目される。

| 11項 魂の再生 |      |      |       |
|----------|------|------|-------|
| 信ず       | 信ぜず  | 不明   | 計     |
| 8        | 33   | 16   | 62    |
| 12.9     | 61.4 | 25.8 | 100.1 |
| 104      | 186  | 175  | 465   |
| 22.4     | 40   | 37.6 | 100   |
| 55       | 84   | 87   | 226   |
| 24.3     | 37.1 | 38.5 | 99.9  |
| 167      | 338  | 278  | 753   |
| 22.2     | 40.9 | 36.9 | 100   |

| 15項 その他 |      |     |      |
|---------|------|-----|------|
| あり      | なし   | 不明  | 計    |
| 18      | 38   | 6   | 62   |
| 29      | 61.3 | 9.7 | 100  |
| 185     | 270  | 10  | 465  |
| 39.8    | 58   | 2.2 | 100  |
| 98      | 121  | 7   | 226  |
| 43.3    | 53.5 | 3.1 | 99.9 |
| 301     | 429  | 23  | 753  |
| 40.1    | 56.8 | 3   | 99.9 |

また職員において鉦員のそれよりも神佛の存否に對する意見が明瞭なことが看取されるが、職員の方に神佛の存在を否定する者が多い。

## 2 魂の不滅、更生の信仰

第VII表において、死後の世界に對する信仰（魂の不滅、再生）についての解答においては、神佛の存否に對するよりも多くの不明判断が与えられている。また魂の不滅よりも再生の方に不明判断が一層多い。

また魂の不滅の問題では、これを信じる者が五十%で信ぜざる者二五%の倍であるが、再生の問題では逆に信ぜざる者が四一%で、信じる者二二%の約倍となつている。換言すれば、死後の世界において、魂の不

第 VII 表 神佛の存否魂の不滅再生に関する信仰（職種別）

| 項目<br>職種 | 9項 神佛の存否 |       |      |       | 10項 魂の不滅 |      |      |       |
|----------|----------|-------|------|-------|----------|------|------|-------|
|          | 存在する     | 存在しない | 不明   | 計     | 信ず       | 信ぜず  | 不明   | 計     |
| 職員 {実数   | 34       | 25    | 3    | 62    | 26       | 33   | 3    | 62    |
| {%       | 54.8     | 40.5  | 4.8  | 100.1 | 42       | 53.5 | 4.8  | 100.3 |
| 坑内員 {実数  | 295      | 82    | 88   | 465   | 227      | 116  | 122  | 465   |
| {%       | 63.5     | 17.4  | 18.9 | 99.8  | 48.8     | 24.9 | 26.2 | 99.9  |
| 坑外員 {実数  | 155      | 35    | 36   | 226   | 132      | 43   | 51   | 226   |
| {%       | 68.5     | 15.5  | 15.9 | 99.9  | 58       | 19   | 22.5 | 99.5  |
| 計 {実数    | 484      | 142   | 127  | 753   | 385      | 192  | 176  | 753   |
| {%       | 64.3     | 18.8  | 16.8 | 99.9  | 51.2     | 25.5 | 23.3 | 100   |

第 VIII 表 神棚、佛壇、その他の祭祀の場所の有無（職種別）

| 項目<br>職種 | 12項 神棚 |      |     |       | 14項 佛壇 |      |     |       |
|----------|--------|------|-----|-------|--------|------|-----|-------|
|          | あり     | なし   | 不明  | 計     | あり     | なし   | 不明  | 計     |
| 職員 {実数   | 51     | 10   | 1   | 62    | 52     | 9    | 1   | 62    |
| {%       | 82.3   | 16.1 | 1.6 | 100   | 84     | 14.5 | 1.6 | 100.1 |
| 坑内員 {実数  | 406    | 54   | 5   | 465   | 370    | 93   | 2   | 465   |
| {%       | 87.3   | 11.4 | 1.1 | 99.8  | 79.5   | 20   | 0.4 | 99.9  |
| 坑外員 {実数  | 211    | 15   | 0   | 226   | 189    | 36   | 1   | 226   |
| {%       | 93.5   | 6.7  | 0   | 100.2 | 83.5   | 15.7 | 0.4 | 99.6  |
| 計 {実数    | 668    | 79   | 6   | 753   | 611    | 138  | 4   | 753   |
| {%       | 91.4   | 8.9  | 0.8 | 101.1 | 81.2   | 18.3 | 0.5 | 100   |

滅の問題はその再生の問題に関するよりも明確な観念が持たれ、且つ魂の不滅は信じるがその再生は信じないという者が非常に多い訳である。

また魂の不滅ということは、職員には信じられていないが、鉦員にはこれを信じる者が多い。このことはまた魂の再生の問題についてもいふ得る事である。

神棚、佛壇、その他の祭祀の場所の有無

第Ⅷ表から、神棚は約九十%、佛壇は約八十%の大部分の家庭に存在し、その他に神佛を祭祀している場所を持つものが約四十%存在することが判明する。その他の場所に祀られている神佛として掲げられているものは、皇神様、大師様、観音様、荒神様、稻荷様、不動明王、金光様などである。

また神棚は職員より鉦員の家庭により多く存在し、佛壇では僅かではあるが職員の家庭に多い。その他の祭祀の場所は鉦員の家庭に圧倒的に多い。神棚、佛壇の場合には多分に型式的な家の附属品といった傾が見られるが、その他の祭祀の場所をもつためには一層信者の側の積極性が要求されるとするならば、鉦員の方がより強い宗教的態度を示すものと云い得るであらう。

\* 神棚や佛壇が普及しているからといつて必ずしも信仰心が厚いとは云えない。たとえば「神様、佛様はあるとは思いませんが、やはり精神のよりどころとして神棚

第Ⅸ表 呪術的医療(職種別)

| 項目  | 16項 祈トウ師に依頼したこと |      |      |      | 18項 祈トウ師の要不要 |      |      |      |       |
|-----|-----------------|------|------|------|--------------|------|------|------|-------|
|     | あり              | なし   | 不明   | 計    | 必要           | 不必要  | 不明   | 計    |       |
| 職員  | 実数              | 14   | 37   | 11   | 62           | 15   | 36   | 11   | 62    |
|     | %               | 22.5 | 59.6 | 17.7 | 99.8         | 24.2 | 58   | 17.7 | 99.9  |
| 坑内員 | 実数              | 104  | 357  | 4    | 465          | 121  | 246  | 98   | 465   |
|     | %               | 22.4 | 76.8 | 0.9  | 99.1         | 26   | 52.9 | 21   | 99.9  |
| 坑外員 | 実数              | 56   | 166  | 4    | 226          | 65   | 153  | 8    | 226   |
|     | %               | 24.8 | 73.3 | 0.2  | 98.3         | 28.8 | 68   | 3.5  | 100.8 |
| 計   | 実数              | 174  | 560  | 19   | 753          | 201  | 435  | 117  | 753   |
|     | %               | 23.1 | 74.3 | 2.5  | 99.9         | 26.8 | 57.8 | 15.5 | 100.1 |

と佛壇は備えています(三五歳、坑外夫、機電、在勤年数十年)というような備考欄の陳述が相當数見受けられた。

### 呪術的治療の問題

第Ⅹ表によれば、自己あるいはその家族の疾病、事故等に際して祈トウ師に治愈祈トウを依頼したこともありとする者は二四%で、それらの存在價值を認める者は更に増加して二七%となつてゐる\*。

なお祈トウ師の問題に関する限り職員、鉱員の間には差異を認めることはできない。祈トウ師として掲げられているものには、日蓮宗、金光教、人の道、観音様、荒神様などがあるが、日蓮宗を掲げているものが比較的多い。

\* 比較の資料が得られないが、このことから直ちに炭坑従業員を蒙昧だということでは

炭坑従業員の宗教的態度

第Ⅹa表 嫌悪する宗教の有無及びその名稱 (炭坑別)

| 炭坑 | 嫌いな宗教 | 嫌いな宗教 |     |     | 天理教  | 新興宗教 | 日蓮宗 | ヤソ教 | 金光教 | 不動尊 | その他 |
|----|-------|-------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
|    |       | あり    | なし  | 不明  |      |      |     |     |     |     |     |
| 中  | 鶴     | 126   | 372 | 19  | 85   | 23   | 8   | 4   | 1   | 1   | 4   |
| 昭  | 嘉     | 23    | 81  | 7   | 11   | 3    | 3   |     |     |     | 4   |
| 本  | 洞     | 5     | 37  | 12  | 2    | 1    |     | 2   |     |     | 2   |
| 本  | 添     | 1     | 47  | 2   |      |      |     |     |     |     |     |
| 仁  | 田     | 4     | 16  | 1   | 1    | 1    |     |     |     |     | 2   |
|    | 保     |       |     |     |      |      |     |     |     |     |     |
| 計  | {実数   | 159   | 553 | 41  | 99   | 28   | 12  | 6   | 1   | 1   | 12  |
|    | {%    | 21    | 74  | 5.3 | 62.3 | 17.6 | 7.6 | 3.8 |     |     | 7.6 |

第Ⅹb表 嫌悪する宗教の有無 (職種別)

| 職種   | 嫌いな宗教 | 嫌いな宗教 |      |     | 計     |
|------|-------|-------|------|-----|-------|
|      |       | あり    | なし   | 不明  |       |
| 職員   | {実数   | 14    | 44   | 4   | 62    |
|      | {%    | 22.6  | 71   | 6.4 | 100   |
| 坑内鉱員 | {実数   | 99    | 344  | 22  | 465   |
|      | {%    | 21.3  | 74   | 4.7 | 100   |
| 坑外鉱員 | {実数   | 46    | 165  | 15  | 226   |
|      | {%    | 20.3  | 73   | 6.7 | 100   |
| 計    | {実数   | 159   | 553  | 41  | 753   |
|      | {%    | 21    | 73.5 | 5.5 | 100.1 |

ない。たとえば「医師にでも全快せぬ病氣が、祈トウ師により全快した実例もありますので、祈トウ師に頼んだこともあります。良いとも悪いとも云えません」(四二歳、坑内夫、充填、青年學校卒、在勤年数五年)とか、「祈トウ師も一つの氣休めになりませんが深入りは禁物です」(二九歳、坑内、その他、小學校一年中退、在勤年数六年)などの備考欄の陳述が相当數認められる。

### 嫌惡する宗教の有無

宗教的な態度には友好的なものと、敵対的なものが考えられる。嫌惡する宗教が存在するということも、宗教的な緊張状態の存在を物語るものである。第Xa表によれば、嫌いな宗教として天理教を掲げる者が、一五九名中の九九名(六二%)を占めている。<sup>\*</sup>また甚だ漠然とした呼称であるが、戦後の新興宗教一般としている者が二八名(一八%)を占める。その中には踊る宗教、爾光尊の宗教などが含まれている。<sup>\*</sup>更に日蓮宗(法華宗と書いた者を含める)<sup>\*\*</sup>などがあり、その他の欄には、佛教、現在の日本の宗教などの概括的な呼称を掲げたものを含んでいる。<sup>\*\*\*</sup>このようにネガティブな意味にせよ好惡の対象となつていふことは、反面その宗教が活発な活動を営んでいることを物語るものであらう。

\* 嫌いな理由として、「金を取り上げられる。信者を食う。」(五十歳、坑外夫、木工、中等學校卒、在勤年数十四年)とか、「幹部の財産蓄積のために、金錢を半強制的に收めさせる。近所にそんな例がある。」(四五歳、坑外、技術職員、中等學校卒、在勤年数十二年)などの、財産寄附を強要されるので嫌いだとするものがその大部分を占める。

\*\* その理由として、「何故か虫が好かぬ。なんとなくみつともない。」(三九歳、坑外、職員、中等學校卒、在勤年数十七年)、とか「ばかげてゐる。ほとんどインチキで、營業主義に走りすぎる。」(三二歳、坑外、雑夫、中等學校卒、在勤年数十五年)など、著しく感情的なものが多い。

\*\*\* その理由として、「朝から晩まで太鼓を叩いてうるさくて仕様がな。晝間睡ろうとしても睡れない。」——炭坑は三交替

制で晝夜共に作業をするので、晝間に睡らねばならぬ者もいる——(三五歳、坑内、掘進、高等小学校卒、在勤年数十七年)と  
いつたものが殆んどである。

\*\*\* その理由として、「終戦の混乱期に、私財を守ることに汲々として、精神的にも物質的にも大衆を救済しようとしなかつた。」(佛教)(二三歳、坑内、職員、中等学校卒、在勤年数十三年)とか、「宗教とは名前だけで、僧侶はお経を上げて生活の糧を得ることに専心これ努める一種の職業に墮している。」(二三歳、坑内、職員、中等学校卒、在勤年数十三年)などがある。

### 三 要 約

産業形態が異なるにつれて宗教的態度が如何に変化するかを明らかにしようとする調査の一環として、筑豊炭田の炭坑従業員七百五十名について質問紙法によつて宗教的態度の調査を行つた。

この調査の結果からは、他の産業形態におけるそれとの比較によつて始めて、原始的産業形態としての炭坑従業者集団の宗教的特質を明らかにし得るに過ぎないが、いま炭坑従業者間におけるそのような傾向的なものとして、職員よりも鉱員、坑外夫よりも坑内夫へと、その生命的危険度の大きな職種程、従業員の宗教的態度が高まつていゝうことができる。

〔附記〕 本調査は昭和二六年度、文部省科学研究費の補助を受けてなされた。調査の概要は、日本宗教學會、第十二回學術大会に古野が發表した。

調査の實施に際して、心よく調査に同意せられ積極的に協力して頂いた各炭坑に深く感謝する者である。

【附 録】

宗 教 調 査

九州大学宗教学教室

※ これは九州大学で宗教の調査にかかうもので、その他の目的にかかうものではありません。またみなさん一人一人のことが問題なのではなく、炭鉱全体の様子を知りたいのです。それでみなさんの名前は書いて頂きますが、できるだけ真実に、正直に書いて下さい。つぎの枠の中にもれなく記入して下さい。

|                            |       |   |     |       |      |      |     |
|----------------------------|-------|---|-----|-------|------|------|-----|
| 炭鉱名：                       |       |   |     | 所在地：  | 縣    | 郡    | 町   |
| 性別：                        | 男     | 女 | 年 令 | 〔満 才〕 | 本籍地： | 縣    | 郡   |
| あなた<br>の職業を丸印でかこんで下さい：     | 職 員   |   |     | 坑内、坑外 | 事務技術 | 鉱 員  | 坑内  |
| あなたが最後に卒業した学校名を丸印でかこんで下さい： | 尋常小学校 |   |     | 高等小学校 | 青年学校 | 中等学校 | 高専校 |
|                            |       |   |     | 大学    | その他  | ____ | 年中退 |

あなたが炭鉱に働くようになった年の年数〔 年〕：その前にしていた仕事（職業）の名〔 〕

- ※ つぎの間に答えて下さい。右側にハイ イ、エと書いてあるものにはそのどちらかに丸印を、また〔 〕としてあるものにはその答をはつきりとわかりやすく書入れて下さい。
- 1 あなたの父の宗旨は何ですか、もし亡なつていられても生前のことを書いて下さい。 [ ハイ ]
  - 2 あなたの父はそのねつしんな信者でしたか。 [ イ、エ ]
  - 3 あなたの母の宗旨は何でしたかもし亡なつていられても生前のことを書いて下さい。 [ ハイ ]
  - 4 あなたの母はそのねつしんな信者でしたか。 [ イ、エ ]
  - 5 あなた自身の宗旨は何ですか。 [ ハイ ]
  - 6 あなたはその宗教のねつしんな信者ですか。 [ イ、エ ]

- 7 あなたがその宗教のなつしんな信者であるならば  
あなたがそれを信んずるようになったのは何才の時ですか  才 ]
- 8 あなたがそれを信ずるようになった動機は [ 病氣：瘧疾；父母の感化；その他 ]
- 9 あなたは神像や佛像があるとおもいますか  はい ]
- 10 あなたは人間には魂があつて死んでも魂はほろびないとおもいますか  はい ]
- 11 あなたは人間には魂があるとおもつてゐるならば、死後その魂は生れかわるとおもいますか  はい ]
- 12 あなたの家には神棚がありますか  はい ]
- 13 あなたの家には佛壇がありますか  はい ]
- 14 神棚や佛壇の他に神や佛をまつてゐるところがありますか  はい ]
- 15 もしあればそこを何と呼んでゐますか [  まつてある場所 ]
- その御神体は何んですか  神体の名 ]
- 16 あなたや家族のものが重い病氣などしたとき医者の外に祈トウ師などにたのんできたことがありますか  はい ]
- 17 もしあるならば何という祈トウ師 (どんな神につかえる) でしたか  はい ]
- 18 あなたは祈トウ師が必要とおもいますか  はい ]
- 19 あなたにはなにか特に嫌な宗教がありますか  はい ]
- 20 もしあればそれは何ですか [  なせですか ]

備考：